

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	78人	国語B	78人
② 数学A	78人	数学B	78人
③ 理科	78人		

5 留意事項

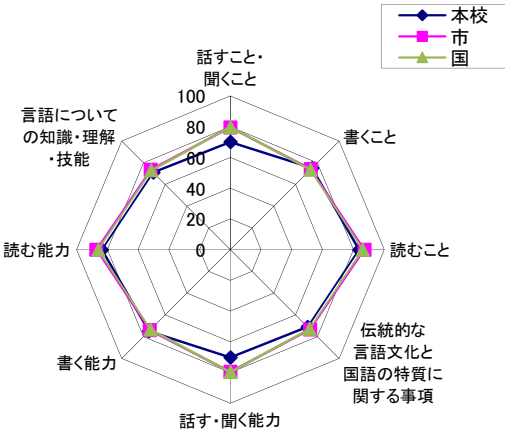
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

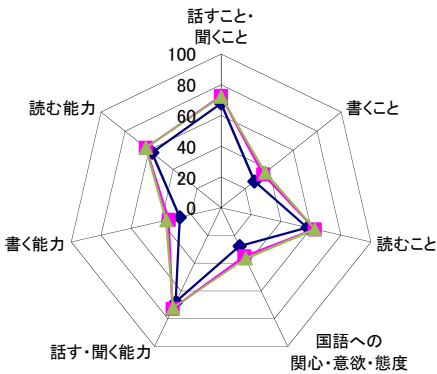
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.1	79.5	79.7
	書くこと	75.0	74.1	73.6
	読むこと	83.7	87.2	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.1	73.4	72.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	70.1	79.5	79.7
	書く能力	75.0	74.1	73.6
	読む能力	83.7	87.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	71.1	73.4	72.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	68.0	72.8	72.2
	書くこと	27.6	35.0	36.7
	読むこと	57.5	62.6	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	27.6	35.0	36.7
	話す・聞く能力	68.0	72.8	72.2
	書く能力	27.6	35.0	36.7
	読む能力	57.5	62.6	62.6
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の勉強を好きだと思っている」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」計64.4%をはじめ、基本的な設問の数値は全国とほぼ同様で、肯定的な解答が多い。
●後半の、勉強したことを活用することに対する設問になると、おしなべて数値が全国よりやや下がる。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

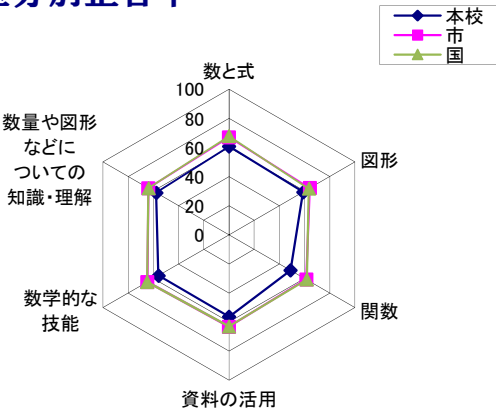
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	国語A、国語Bにおける領域の平均正答率は、全国や市の平均より低い。 ○Bの「フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択する」設問の正答率は、全国より2.2ポイント高い。 ●他の設問は、2～15ポイント低い。	・話したり聞いたりする目的を意識して、効果的な話や聞き取りができる力を身に付けるための場を増やす。
書くこと	国語Aにおける領域の平均正答率は、全国や市の平均より高く、国語Bでは低い。 ○国語Aにおいては、選択式、短答式に関わらず、正答率は全国より高いか、ほぼ同等かである。 ●国語Bでは、問題形式が全て記述式となり、正答率が大きく下がっている。	・記述式の設問になると無回答率が高くなる。選べるだけでなく、自分で考えて書くことができる力を育てる。
読むこと	国語A、国語Bにおける領域の平均正答率は、全国や市の平均より低い。 ○国語Bの「ウェブページの文書の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する」問題の正答率のみ全国より高い。 ●他の設問の正答率は全国より低い。	・より適切な読みができるよう、考えて読む練習をする機会を増やす。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語Aにおける領域の平均正答率は、全国や市の平均より低い。 ○漢字の読み書きのような正答率が全国を上回る。 ●ことわざ、品詞などは正答率が低く、高いものとの差が大きい。	・学習した知識を定着させる方策を工夫、実践する。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

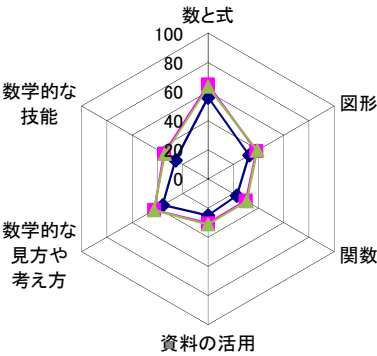
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	60.7	67.0	67.7
	図形	58.8	64.1	63.4
	関数	48.8	61.4	61.7
	資料の活用	56.3	63.3	63.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	56.0	64.8	65.0
	数量や図形などについての知識・理解	57.8	64.0	63.9



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	55.9	64.8	63.2
	図形	32.6	38.3	39.0
	関数	22.9	29.9	30.7
	資料の活用	25.0	30.4	31.2
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	35.9	42.6	42.8
	数学的な技能	25.7	34.9	34.2
	数量や図形などについての知識・理解			



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「数学の勉強は大切だと思うか」「数学ができるようになりたいか」という質問についての肯定的な回答の割合は、市、全国とも上回っている。
●「分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか」「もっと簡単に解く方法がないか考えますか」という質問についての肯定的な回答の割合が、県、全国とも下回っている。

★指導の工夫と改善

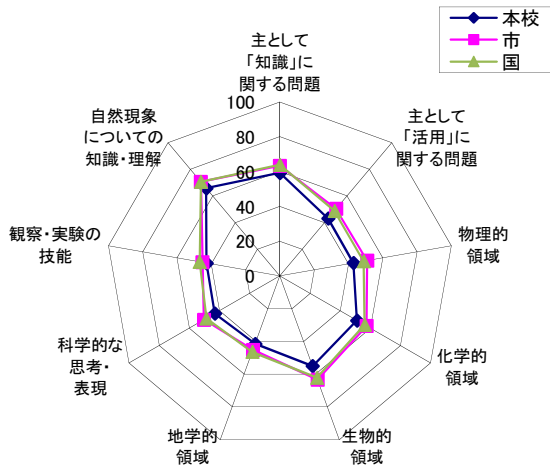
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	数学A、Bにおける領域の平均正答率は、全国、市ともに大きく下回っている。 ○等式の性質の用い方を選ぶ問題と、小数を含む一元一次方程式を解く問題では、全国、市ともに平均正答率を上回った。 ●その他の項目についてはすべて下回っている。特に、文字を用いて整数の性質を説明する問題では、全国平均を12.3%下回っている。	・基本的な計算力や知識の定着を目指した繰り返しの学習をより強化していくとともに、理解の遅い生徒に対してT.T.でのサポートを継続して行っていく。 ・過去に学習した内容の定着を目指して、計算プリントや小テスト等を利用して生徒に復習の機会を積極的に与えていく。
図形	数学A、Bにおける領域の平均正答率は、全国、県、市ともに下回っている。 ○同位角の位置にある角を選択する問題では、正答率81.6%で、全国平均を上回った。 ●図形の証明に関する問題の正答率が、全国平均よりも大幅に下回っているものが多く、図形の性質や証明の仕組みに対する理解に課題が見られる。	・図形の基本性質を定着させるために、短答式の問題を数多く繰り返し解く場面を設定していく。 ・授業の中で説明しあったり、教えあったりする言語活動の時間を積極的に設け、説明や証明といった言葉の問題に対する苦手意識を克服していくようにしていく。 ・複雑な問題を解決する力も身につけられるよう、必要に応じて習熟度別学習を取り入れ、個に応じた指導を充実させていく。
関数	数学A、Bにおける領域の平均正答率は、全国、県、市ともに下回っている。 ○選択問題に対する無回答率はどの設問でも全国平均より低く、答えようとする意欲の高さがうかがえる。 ●すべての設問における正答率が全国平均を下回っている。ほとんどの設問において、全国平均を10%以上下回っており、関数全般についての知識・理解、技能の定着の弱さが課題として挙げられる。	・苦手意識を減少させるために、身近な例と関連付けて、興味・関心を持たせながら、基礎知識の習得と理解を深めさせる。 ・複雑な問題を解決する力も身につけられるよう、必要に応じて習熟度別学習を取り入れ、個に応じた指導を充実させていく。
資料の活用	数学A、Bにおける領域の平均正答率は、全国、県、市ともに下回っている。 ○度数分布表からある階級の度数を求める問題や、場合の数を求める問題では、全国平均をやや下回りながらもほぼ同値である。 ●確率の意味を問う問題では、全国平均を約15%も下回っており、確率全般での学力の定着に課題が見られる。	・用語の意味を定着させるために、練習問題を多く得活動授業に取り入れていく。 ・確率の有用性を感じ、興味を深めるために、いろいろな場面での確率の活用例を授業の中で取り入れられるようにする。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	59.2	63.3	63.8
	主として「活用」に関する問題	43.1	50.3	48.8
分野等	物理的領域	42.9	50.9	48.9
	化学的領域	51.1	57.5	56.2
	生物的領域	55.0	63.4	62.2
	地学的領域	41.4	45.2	46.4
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	43.1	50.3	48.8
	観察・実験の技能	42.8	45.1	46.8
	自然現象についての知識・理解	65.8	70.6	70.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「理科の勉強は大切だと思いますか。」では、肯定率が81.6%と県・全国より大きく上回っている。その他の質問紙調査でもおおむね県・全国と同様あるいは上回っているものが多かった。
●「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。」では、肯定率が19.7%となっている。「どうしてこうなるのか?」などの考える楽しさを授業の中で思わせることを通して、少しでも肯定率の向上をはかっていきたい。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物理的領域	理科における物理領域の平均正答率は、全国、市ともに6.7%ほど下回っている。 ○音の波形の比較し、音の高さが高くなった根拠として正しいものを選ぶ問いについては、県・全国の平均より高くなっている。 ●光の凸レンズによってできる像についての正答率が低くなっている。	・実験をおこなうときから、結果の予想や結果のまとめ、結果からわかることをより丁寧に時間をかけておこなうことが大切である。 ・基本的な用語や計算問題を繰り返しおこない、基本的事項の定着をはかっていきたい。
化学的領域	理科における化学領域の平均正答率は、全国、市ともに6.7%ほど下回っている。 ○塩化ナトリウムの化学式を選ぶ問いについて、県と全国とほぼ同じ正答率になっている。 ●炭酸水素ナトリウムが二酸化炭素の発生に関係することを特定する対照実験についての正答率が大きく下回っていた。	・実験を通して、結果の予想や結果のまとめ、考察をより時間をかけて学習する取り組みをしていく必要がある。 ・覚えるべき化学式や期待の発生方法などの重要項目を繰り返しおこない、基本的事項の定着をはかっていきたい。 ・科学的な思考を高めるために、設問などに工夫をして授業をおこなってきたい。
生物的領域	理科における生物領域の平均正答率は、全国、市ともに6.7%ほど下回っている。 ○えらぶたの開閉回数の平均値を求める理由として適切なものを選ぶ問いでは、県・全国より2.3%正答率が高くなっている。 ●消化酵素のよって、デンプンが最終的に分解された名称を選ぶ問いでは、10%以上下回っている。	・実験や観察を通して、どうしてこのような現象になるのかを考える時間を丁寧に取ってきたい。 ・実験や観察の後に、考察をする時間を十分にとっていくことで、科学的な思考力や表現力を高めていきたい。
地学的領域	理科における地学領域の平均正答率は、全国、市ともに4.5%ほど下回っている。 ○天気図から風力を読み取ったり、風向を示している風向計を選ぶ問いでは、県・全校を上回っている。 ●気圧の変化をモデルで表した問いでは、10%以上大きく下回っている。	・天気や大気圧の間であったため、日常生活との関連を日頃の授業の中でおこなっていく必要がある。 ・基本的な用語やその現象が起こる理由などを理解するために、反復的な学習をおこない、基本的事項の定着をはかっていきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した生徒の割合が96.1%（当てはまるとの回答80.3%）であった。また、「将来の夢や目標を持っている」と回答している生徒が、81.6%いて、全国、県を10ポイント以上上回っている。これは、夢や目標を持ちながら、特別活動、学校行事や部活動などを通して最後まで粘り強くものごとに取り組む、成功体験を重ね成長している姿がうかがえる。

○「自分にはよいところがある」と回答している（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）生徒の割合が88.1%であり、全国を20ポイント、県を16ポイント以上上回っている。市が進める「宮っこ心の教育」を進めたり、特別活動においてエンカウンターなどを行ったりした結果、認め合い、励まし合いながら自己肯定感が高い生徒が増えていると考えられる。今後もあらゆる教育活動において認め合い、励まし合う活動を重視し推進していきたい。

○学校の授業時間以外の学習時間について、平日、休日ともに全国1時間以上、2時間以上勉強している生徒の割合が全国、県よりも10ポイント以上高い。夢や目標を持って勉学に励もうとする姿勢がうかがえる。また、学校で取り組んでいる自主学習ノートを活用している成果の表れでもありと考えられる。今後も継続して取り組んでいきたい。

○「家の人が授業参観や学校の行事によく来る」と回答している生徒の割合が77.6%あり、全国を25ポイント以上、県を9ポイント上回っている。家庭が学校に協力的である姿がうかがえるので、今後とも家庭との連携を進め生徒の成長をみんなで支える地域にしていきたい。

○「人の気持ちが分かる人間になりたい」と回答している生徒の割合が100%、「人の役に立つ人間になりたい」と回答している生徒が96%に上る。道徳の時間をはじめ宮っこ心の教育を推進している成果であると考えられる。

●普段（月～金曜日）に、1日あたりゲームを1時間以上して生徒の割合が61.9%あり、全国、県よりも高い。また、「新聞をほぼ毎日読んでいる」生徒の割合が6.6%、「週に1～3回程度読んでいる」生徒の割合が9.2%であり、全国、県よりも5ポイント以上高い。ゲームの世界に没頭することなく、世の中の動きにも目を向けられるように指導していくことが大切であるとする。機会をとりえて時事ネタを取り扱うなどの工夫を進めていきたい。